



12/15~12/26
(水) (日) 美術館にあふれる
子ども達の感性

児童生徒が、作品の制作・展示・鑑賞等の一連の取組を通して、「情緒豊かな心」や「作品を見て感じる心」を育て、豊かな感性と創造力を引き出し、また児童の大きな自信を得る契機を作ることを目的として「第11回浦添市小中学校美術作品展」が浦添市美術館で開催されました。

展示された作品は、市内小中学校から選抜された全276点で、その中から特に優秀な32作品については、開催初日に表彰式が行われました。市長賞を受賞した牧港小2年生の友寄若菜さんは「受賞を先生から聞いてびっくりした。とてもうれしかった」と、話していました。



12/7
(火) 自治会の課題解決に向けて

浦添市自治会長会は、各自治会が抱える課題解決への手引書となる「自治会長ハンドブック」を作成し、市長に贈呈しました。市内にある40自治会の会長を対象にアンケートを実施して、自治会加入促進の取組やそれぞれの地域で抱える課題などを集約し、その解決方法について自治会長の視点で話し合い、約2年がかりで完成させました。

贈呈式の中で自治会長会の比嘉会長は「この取組は、県内で初めてだと思う。作業は大変だったが、各自治会の問題点が把握できた。この問題点を行政側にも伝えていきたい」と、述べました。



1/5
(水) 新年祝賀会・市消防出初式

平成23年の新年祝賀会が市民体育館で開催されました。会は浦添市文化協会の「かぎやで風」で始まり、浦添市の発展を祈願して鏡開きが行われ、集まった市内外の企業関係者をはじめ、各種団体関係者など多くの参加者にぎわいました。

また、市消防本部では新春恒例の市消防出初式が行われ、市消防職員、消防団員、婦人防火クラブが参加しました。式では火災の予防及び早期鎮火に対する意識の高揚を呼びかけたほか、式の後には展示訓練や一斉放水も行われました。



12/19
(日) 子ども達との交流を深めながら
CGG (クリーン・グリーン・グレイシャス) 運動

県内各地域でクリーン活動・ふれあい活動として行われている「CGG運動」が浦添市でも多くの市民参加により行われました。これは青少年の健やかな成長を願い、地域での大人と子どものきずなを深めようと、教育関係機関、自治会等が中心となり、地域住民が参加する取組として毎年実施されています。

市役所で行われた出発式には、浦添工業高校、陽明高校、浦添中学校の生徒および各種関係団体の参加があり、出発式後にはクリーン作業が行われました。市内各地域でも清掃作業が行われ、地域の子ども達を中心にその日だけで約22tものゴミや草木が回収されました。



12/18
(土) 12/19
(日) 子ども達のオペラに感動

市文化芸術振興事業、子どもオペラ「アオリヤエーようどれに眠る愛」が市制施行40周年記念事業として、てだこホール大ホールで上演されました。

物語は、尚寧王を支えた王妃「アオリヤエ（阿応理屋恵）」が、薩摩侵攻によって王と引き離されたことによりお互いの愛に気づき、国王不在の琉球の復興に力を尽くすという内容です。公募で選ばれた市内の子ども達約100人は、5月から約8か月間にわたって練習した声楽やダンスの成果を披露するとともに、市ジュニアストリングスと市ジュニア吹奏楽団の合同オーケストラが劇中音楽を優雅に演奏し、会場を魅了しました。



1/15
(土) 漆の輝きに魅了されて

平成2年に日本初の漆芸専門美術館として誕生した浦添市美術館の開館20周年と浦添市市制施行40周年を記念して開催されている「美へ挑む、うるしの輝き〜近現代日本の漆芸〜」のオープニングセレモニーが行われました。

展覧会では、明治から現代までの日本の代表的な漆芸作家とその作品、約90件により、これまで沖縄で触れる機会が少なかった近現代日本漆芸の歴史の流れや、その美と技を紹介しています。来場者は、人間国宝の作品などを鑑賞し、奥深い漆の輝きを楽しんでいました。展覧会は2月13日まで開催していますので、是非ご来場ください。



12/12
(日) 海岸岩場に
刻まれた先人たちの生業 なりわい

西海岸地区の発掘調査成果を市民に周知するために、「浦添市西海岸の石切場跡」の発掘現場見学会が港川で行われました。同地区には別名「栗石」と呼ばれる牧港石灰岩の岩盤が広がり、戦前までは建築部材として切り出されていました。

今回の見学会は約120人の参加があり、石の柱を切り出した跡や板状の石を切り出した跡、現地に残された鉄製の工具などを、専門家や担当職員の説明を聞きながら見学しました。参加者からは「港川に住んでいるが、石切場があったなんて知らなかった」などの感想がありました。